

## 「平庭の麓から」

文責：久慈市立山形小学校 校長 角谷 隆章

学校+保護者+地域=子どもの健やかな成長

「学び高め合う子」、「心豊かな子」、

「強くたくましい子」の育成をめざして

### 【『親力』試してみますか？】

これは、親はもちろん、我々教師もその力や見方・考え方を試すことができる“テスト”です。一つやってみましょうか。理由を考え、一つ選択してください。(解説は裏面です)

問い 子どもが深刻な顔で「このごろスポ少のコーチに怒られてばかり……。嫌われているかも」と打ち明けてくれました。あなたは、まず何と言いますか？

選択 ア あなたがしっかりやらないからでしょ。もっと頑張って練習しなさい。

イ それはつらいね。怒られるのは嫌だよね。

ウ だいじょうぶ、心配ないよ。頑張って練習すればほめてくれるよ。

ポイント：子どもにもいろいろな悩みがあります。親が子どもの悩みを共感的に聞いてあげると、子どもはたっぷりと話すことができます。そうすると、いいことがたくさんあります。まず、ため込んでいたものを吐き出すことで、子どもは心がスッキリします。時には、それだけで解決に向かうこともあります。そうでない場合も、子どもの本音をたっぷり聞くことで、何が本当の問題かがはっきりみえてきます。それによって、どういう対応をしたらいいか、どういうアドバイスをしたらいいかなどがわかってきます。本当の問題がはっきり見えないと、適切な対応やアドバイスができません。ほとんどの場合、子どもへのアドバイスや励ましは、たっぷり共感的に聞いてあげた後の方がいいでしょう。人は誰でも、共感的に聞いてくれて自分のことを受け入れてくれた人には大きな信頼感を持つものです。

出題は、<sup>おやのちから</sup>親野智可等先生（本名：杉山桂一 1958年生まれ 超人気メールマガジン『親力で決まる子供の将来』は、教育関係で群を抜く4万人の読者を持つ。著作多数）。教師生活23年の現場経験で培ったノウハウをもとにあなたの親力を診断します。「教育のまぐまぐ」や「親力まぐまぐ」で検索すれば、みることができます。子育てに関して何かヒントを得たいときにのぞいてみるのもいいのではないかと思います。

### 【子どもの“夢”を大人がどうとらえるか】

先月読んだ本（ビートたけし著「コロナバカ」）から抜粋したものです。夢を持つなということではありません。しかし、ただただ夢を追いかけるだけではダメ。もっと大切なことがあるということです。

大人に近づくにつれて、自己理解による自己分析と将来の自分の夢との整合性を図るようにしていかなければならない。それを出来ずに社会に出た時、その子はどうなるのかと思うからです。かなり極端な話ですが、「私はウルトラマンになって地球を救います」と社会に出てから本気で言えるのか？ 親は、教師は、

そのような人間を育てるために躰（しつけ）をしたり、教育をしたりしているわけではないことは誰だってわかります。小学校低学年の子どもが話すことをニコニコ聞いてあげる時期があってもいい。高学年で大谷翔平という夢を語ってもいい。でも大人がいっしょになっていつまでもその夢を追い求めていいのか。藤井聡太くんや大谷翔平くんはある意味ウルトラマンだと私は思います。

以下、ビートたけし著「コロナバカ」より抜粋

藤井聡太や大谷翔平を見て、子供に「夢に向かって頑張れ」という親はバカだ。  
「努力より才能」という現実

お騒がせタレントが出てくる一方で、ワクワクさせてくれるのが若い人たちの大活躍だよ。

将棋の藤井聡太くんは、2020年に18歳でものすごい快挙をやった。「棋聖」のタイトルを獲ったと思ったら、あっという間に「王位」まで勝ち取って「二冠」になっちゃった。これでまだ高校生だからね。この勢いなら、まだ誰も成し遂げていない「八冠制覇」も近いんじゃないの。

2020年は不完全燃焼だったけど、エンゼルスの大谷翔平もやっぱり規格外の存在でさ。本調子に戻って、二刀流で復帰すれば、20勝・20本塁打だって夢じゃない。

こういう天才的な若者たちが活躍すると胸が躍るけど、かといって「子供に夢や希望を与える存在」という言い方は何か違う気がするぜ。

ここまで図抜けた存在を見てしまうと、「やっぱり努力より才能なんだな」「天才ってのは最初からモノが違うんだな」ってことがあからさまにわかっちゃう。

藤井は小学生の頃から大人顔負けの実力だったっていうし、大谷はそのデカイ体を見れば、恵まれているのは一目瞭然だからね。“普通の子供”とはスタートラインがまるで違うんだよ。

だから本当のところをズバリ言っちゃうと、この人たちは“夢を与える存在”というより「普通じゃ頑張っても辿り着けない境地がある」って、子供たちに“夢をあきらめさせる”存在なんだよ。

もちろん藤井がベテランに「参った」と言わせたり、大谷がメジャーで大活躍するのは応援しているし、嬉しいんだけどさ。この2人の活躍を見て「子供に将棋をやらせてみよう」「いや、やっぱり野球だ」なんて考える親は罪作りだぜ。子供に「頑張って藤井くんや大谷くんみたいになれ」なんて言うのは、明らかに高すぎるハードルなんだからさ。

本来、親がやるべきは「お前も一流になれ」って無責任にケツを叩くことじゃない。「才能がなくとも生きていける礼儀や愛嬌、最低限の勉強をしろ」って教え込むことなんだよな。

## 表面の解説

- (×) ア 親にまで否定されては、子どもはますます悩むばかりです。
- (◎) イ まずは、子どものつらい気持ちに共感してあげることが大切です。そうすれば、子どもはたくさん話すことができます。そして、それもたっぷり共感的に聞いてあげましょう。
- (△) ウ 人が落ち込んでいる時、すぐに励ましたり、アドバイスをしたりすると、うまくいかないことがあります。相手は、「自分がどんなにつらいか、わかってもらえていないようだ」とか、「お説教された」と感じることもあるからです。励ましやアドバイスの前に、共感的に聞くことが大切です。